

SHIRAKOBATO

しらこぼと



2004.3

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 239

日本野鳥の会 埼玉県支部

WANTED II

石井 智

はじめに

1987年9月号にWANTEDとして13種を載せた。そのうち、ハイイロヒレアシギ・オオセグロカモメ・カモメ・コホオアカ・シベリアジュリンの5種は、リストに加えられ、県内のリストは314種にもなった。

今回は、まだWANTED中の8種類の他に、県内で記録されそうな種や、最近の記録が減少している種も加え、またまた独断によるWANTED IIを書いてみた。

引き続き

WANTED

1 ウミウ

1986年の全国鳥類分布調査で、都県境の荒川で記録されている。1羽だけはなれているウがいたらよく観察してみよう。ひょっとしたらウミウかも……。

2 シマクイナ

12.5cmと小さく、また隠れる習性もあるので、観察されることはまれである。神奈川県での記録があるので、冬の湿地や休耕田などを注意深く観察していると思いがけない発見が……。

3 ハジロコチドリ

渡良瀬遊水地（栃木県）や手賀沼などでの記録があるので、県内でも観察される可能性はある。飛んだときの翼帯がイソシギに似て



(富士鷹なすび)

いる。

4 オオメダイチドリ

以前、荒川河川敷（さいたま市）で目撃されているので、観察されてもよい種である。嘴の長さや足の長さで、メダイチドリとの識別ができる。

5 オオチドリ

6 コバシチドリ

ムナグロの群の中で観察されるかもしれないという、期待を持たせる2種である。じっくりムナグロを見ていると、思わぬ発見があるかもしれない……。

7 ハリオシギ

以前、休耕田（川口市）で目撃されている。他のタシギ属との識別は難しいが、尾羽の数などで見分けられるという。あなたの識別能力によって見分けられるかもしれない。

8 エゾセンニュウ

栃木県や千葉県での記録があるので、県内でも観察される可能性がある。けっこう肩斑が目立つが、潜伏性が強いので、なかなか姿を見せない。

新たに

WANTED

近県の記録があるので、県内でも観察されそうな6種を独断でWANTEDした。

1 マダラチュウヒ

渡良瀬遊水地（栃木県）での記録がある。ハイイロチュウヒやチュウヒとの識別を要する。

2 コシギ

神奈川県での記録がある。18.5cmと小さいが、肩斑が2つに分かれていることや、背中の黒色部に金属光沢があることで識別できる。

3 ヤマヒバリ

栃木県戦場ヶ原での記録がある。県内でも

似たような環境で観察される可能性がある。
地鳴きはカヤクグリに似ているとあるが、姿を見れば間違いないと思われる。

4 マキノセンニュウ

12cmと小さく潜伏性もあるので、観察されることは少ないが、宇都宮市や野田市で記録されている。体は茶褐色で白い眉斑があり、上面にも下面にも細い縦斑がある。

5 シラガホオジロ

ヤマヒバリと同様に戦場ヶ原での記録があるので、注意深く観察すると県内でも観察される可能性はある。ホオジロの仲間では1番大きく17cmである。

いつの間にか

WANTED

少し前までは観察されていたのに、気がついたらあまり観察されなくなった種を、これまた独断で載せた。

1 ウズラ

1986年の調査でも7メッシュしか観察されておらず、観察される機会が少なくなった。草原に生息し足元から急に飛び立つことが多い。以前は秋ヶ瀬でも観察されていた。

2 アカショウビン

少し前までは山沿いの溪流などで観察されていた。1986年の報告でも繁殖地域が概ね10カ所以下に限定されている種にあげられている。

3 ブッポウソウ

1986年の調査では、秩父地方で10ヶ所程度の繁殖が確認されていたが、今ではほとんど観察されなくなった。秩父神社で繁殖するものが県の天然記念物に指定されているが、今では姿も見られない。

4 チゴモズ

5 アカモズ

両種とも低地帯や台地・丘陵地帯で観察されていたが、減少が著しい種にあげられている。チゴモズは1979年までは繁殖も確認されていた。

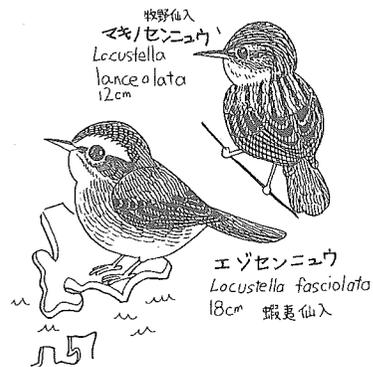
おわりに

独断による WANTED II はいかがでしたか。実際は台風や低気圧などによる迷行のほうが多いので、ここに載っていない種による記録のほうが多いのです。

また以前にも書きましたが、わからない種はわからないのであり、無理に識別しない方がよいと思います。なぜなら図鑑にそっくりではなく、図鑑がそっくりだからです。そして、楽しく観察できてリストも増やすためには、これ以上環境を悪くしないことです。

主な参考文献

- 我孫子野鳥を守る会 1994 手賀沼の鳥
- 環境庁 1981 日本産鳥類の繁殖分布
- 環境庁 1988 動植物分布調査報告書
- 埼玉県 1986 埼玉の鳥とけものたち
- 日本野鳥の会栃木県支部 1981 栃木県産鳥類目録
- 日本野鳥の会栃木県支部 2001 栃木県産鳥類リスト
- 野田野鳥同好会 2001 野田市を訪れた野鳥たち



(富士鷹なすび)

『しらこぼと』の思い出 原稿募集

私たちの『しらこぼと』は、今年の5月号(通巻241号)で創刊20周年を迎えます。これとひとえに、会員一人一人の力の結晶と考えています。

そこで、皆様と歩んできました支部報20周年をふり振り返り、会員各位より『しらこぼと』の思い出を募集します。

3月末日までに、郵送又はメール(P.12下段参照)で原稿をお待ちしています。

白馬探鳥会参加

石川武美 (所沢市)

最初の探鳥は、シベリア方面からのハクチヨウヤカモ類。空にはトビの群れ。溪谷のダム湖ではオシドリが観察できました。宿泊する「にほめの一步」に到着。食堂の窓から餌場を見るとミヤマホオジロ。明朝が楽しみです。

夕食後はスターウォッチング、鳥談義、探鳥地の情報交換と話が尽きません。

早朝、餌台にゴジュウカラ、ミヤマホオジロ、♀、ベニマシコが次々と現れ感激。特にゴジュウカラは、中学生の頃に見てから40数年ぶりです。今回の探鳥会最大の収穫でした。

朝食後9時に出発。姫川ダム湖でオシドリ。大峰高原では木々の中からウソやイカルの声。しかし、なかなかスコープに捉えることができません。唐花見湿原では、今回目玉のベニマシコ。オオタカの出現に数百羽のアトリが舞い立ち旋回し、壮観な眺めでした。

お土産も買い求め、帰宅の途に。車中の鳥合わせでは57種類。一泊探鳥会参加は初めてでしたが、大変満足できるものでした。今後も参加したいと思います。最後に、鳥だけでなく草花や樹木などももう少し勉強しなければと反省した二日間でした。



アカゲラ (編集部)

フクロウは昼も鳴く

山部直喜 (三郷市)

2月1日。昨日の21:40にその生息を確認できたので、今日は繁殖可能な樹洞を探しにその地に向かう。身支度を整え、車のドアを閉めようとしたその瞬間、奥の林から夕べ盛んに鳴き交わっていた「ホーオ、ホーホ、ホーホ、ゴロスケホーホ」と「ホッ、ホッ、ホッ、ホッ、ホッ、ホッ、ホッ、ホッ」の声。思わず腕時計を見る。14:00ジャスト。

「えっ、フクロウは昼間も鳴くのか」と尻上がりの抑揚で一人ごとを言いながら、半信半疑、林の奥へ入っていく。一羽が枯れ枝から飛び立つ。目と耳に全神経を集中させてその場に座り込むこと1時間。その間、姿は確認できなかったけれど、二羽の鳴き交わす声を充分堪能できた至福の時間であった。

帰宅して調べたところ、昼間にも鳴くことはあるらしい(蒲谷鶴彦『日本野鳥大鑑 鳴き声333』)。しかし、巣づくりに入る前の行動が盛んになるこの時期(交尾期?)に限ることかもしれない。または、昼間は様々な雑音で気付かないのかもしれない。

フクロウの鳴き声については、滝沢信和『フクロウを撮る 農業青年の観察苦闘記』岩波書店が大変おもしろい。♂の鳴き声12パターン、♀の16パターンが紹介されている。いずれにしる、この本を持ってしばらくはフクロウ観察が続きそうである。

(追記)

- ・2月1日(日)21:05~23:00 昼間に確認したのにまた来てしまう。確認できず。
- ・2月2日(月)21:00~22:00 仕事の帰りのスーツ姿では寒すぎる。確認できず。
- ・2月3日(火)22:00~23:30 帰宅してみたものの落ち着かず確認に向かう。確認できず。
- ・2月4日(水)21:30~22:30、確認できず。
- ・2月5日(木)20:30~22:30 もしやと思って林の裏手に回ってみる。確認。ビデオには夜空をバックに亡霊のようにかすかに写っていた。スーツ姿でも寒くはない。
- ・2月6日(金)22:00~0:30 着いたとたんに睡魔に襲われる。確認できず。

今冬の渡良瀬遊水地

内田孝男（茨城県総和町）

今冬の渡良瀬遊水地を見ると、利根川上流河川事務所（名称を変更）の管理の仕方が少し変化していて、ヨシを刈る時期や堤防の草刈の日程が違っていました。例えばヨシ原浄化ブロックは昨冬は早めにヨシを刈ったため、チュウヒも結構早いうちから確認され、北エントランスから入った桑並木の北側に車を寄せて谷中湖方面を見ると、数羽は見かけられたものでした。もちろん今冬も見かけはしますが頻度、数としては少ないようです。また堤防の草刈は逆に早いうちから始まったこと。昨年は大雨による影響が無くハタネズミがより多く発生しているらしいことの結果として、コミミズクの居付きとなったのではないかと思われています。刈られた堤防の法面をゆっくりと飛び、簡単にエサを取る姿を何回も見ました。



ここで見られるノスリ、ハイイロチュウヒ♂、コミミズクの遊水地ならではと思われる関係ですが、6羽いたコミミズクはそれぞれある程度のエリア内で行動していて仲良く飛ぶようなことはありません。同じ様に現れるハイイロチュウヒ♂は別な行動をします。それぞれのコミミズクのエリアを縦で結ぶ飛び方をしています。コミミズクは狩りをして捕った獲物を、ちよくちよく堤防下のヨシ原との境に隠します(といっても姿は見えている)。それをハイイロチュウヒ♂がエリアを直線で結ぶようにゆっくりと飛び、目ざとく見つけ、頂戴しては先の畑でご馳走になっています。当初ハイイロチュウヒ♂は獲物を見つけながらも、時々堤防上を警戒して目が合ったものの、最近ではそんなことも無くなり、無視し

て下を向いたまま飛ぶものだから、撮り屋さんからは物足りないなどという声も聞かれません。♂は6以上、♀は去年より少ないようです。一方、コミミズクといえば、ノスリに狙われ、すでに1羽はやられてしまいました。獲物を横取られ命までも狙われる、同じ猛禽でもかわいそうな気もするコミミズクであります。せめて人間くらいコミミズクの生活に負荷をかけないように、お互いに気配りをして欲しいと思いました。

2月1日、栃木県支部を中心としたワシタカカウント調査が実施されました。

10:15から12:30までに現れた鳥を記録に残していくものですが、何せ広大な遊水地です。今回は9ポイントに分かれての実施でした。重複のないよう観察するので大変です。トランシーバーを通してやり取りをしながらで15分ごとに記録紙に残していきます。ワシタカファンのみならず一見の価値はあると思います。今冬のチュウヒの出現は例年に比べるとやや少ない気もしましたが、罫入り調査も含めて30羽前後が確認されています。ワシタカ類全体では100羽以上が越冬していると考えられます。2市4町4県にまたがり難しい面もありますが、関東ではこれからも残していかなければならない土地であると思います。

釧路湿原に次ぐ日本第二のヨシ原面積を持つ渡良瀬遊水地。昨年は10年前に続きラムサール条約登録湿地にするべく埼玉県支部をはじめ6団体名で要望書が提出されました。また12月にはシンポジウムも開催されましたが、環境を考えた時、野鳥の会員皆様のみならず訪れる全ての人々に関わってほしいと思っています。





さいたま市緑区見沼自然公園 ◇10月24日、コガモ数十羽、オナガガモ、オカヨシガモ2羽、セグロセキレイ。カワウ、高圧線の鉄塔にとまる。11月18日、餌をまく人がいて、オナガガモが水辺に上がっていくとカラスが攻撃。マガモ、アオサギ、ツグミ、カワラヒワ。◇12月4日、カワラヒワとメジロの群れがアキニレの木にとまり、実をついばんでいた。カシラダカ2羽、シメ1羽。12月15日、メジロ、カワラヒワ、カシラダカ、シメ(宇田川武男・美智子)。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇10月30日、カケス、カワセミ、イカル、ジョウビタキ。11月15日、カシラダカ、セッカ、アオジ。12月3日、コゲラ多数、ジョウビタキ♂、シメ、ツグミ多数(宇田川武男・美智子)。◇11月18日、子供の森で二度にわたってブッシュの中から全身茶色の鳥、低空飛行で逃げる後ろ姿・・・ヤマシギか(鈴木紀雄)。

戸田市道満 ◇12月29日、彩湖ポンプ場傍でベニマシコ、年初に♂2羽がいつもいた辺りに♀がいました。今回気がついたのですが、ベニマシコの横顔はヒッチコックにそっくりです(渡邊一)。◇1月4日、道満グリーンパークの池でオオバン5羽、バン3羽、ミコアイサ♀1羽。彩湖管理橋南側でカンムリカイツブリ1羽、アオサギ多数。同所管理橋南右岸の池で待つこと20分。水の少ない枯れ葦原からアオジ2羽飛び立つ。少しして、抜き足差し足、キョロキョロしながら、もの静かにお目当てのクイナ1羽出現(陶山和良)。



ミヤマオウム(ニュージーランド)海老原美夫

岩槻文化公園 ◇11月12日、南縁の林の中でオオタカ成鳥1羽、よく見ようとした瞬間サッと飛んだ。11月26日午前8時30分～10時、カワウ、アオサギ、カルガモ、ヒドリガモ、コガモ、オナガガモ、イカルチドリ、セグロカモメ、カワセミ、アカゲラ、コゲラ、ジョウビタキ、トラツグミ、アカハラ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、アオジ、シメ、カケス他計32種。12月25日、いつもの場所でルリビタキ♂1羽。元荒川で珍しくハシビロガモ。1月2日、落ち葉をガサガサ歩く音がしたので、林床をよく見たらヤマシギが遠ざかっていくところだった。背から腰の地味だが複雑な模様が見え、左に振り向いて、特徴的な顔つきもバッチリ。以前からいそうな場所だと思っていたが、やはりいた。他にルリビタキ♂1羽(鈴木紀雄)。

岩槻市第六天神社 ◇1月6日、元荒川の堰の上流側でカルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモの中にヨシガモ♂1羽(鈴木紀雄)。

岩槻市岩槻公園 ◇1月11日午前11時45分頃、生涯学習センター入口付近でシジュウカラ群れ中にコガラ1羽。コガラ観察中に別の鳥が車止めにとまったので観察。図鑑と比べてオジロビタキと判断した。地上に降りたり、ドウダンツツジ枝にとまったり、よく動いていた(亀山睦子)。◇1月12日午後1時30分頃、生涯学習センター入口右のヒバ林の林床を動き回る個体を発見。オジロビタキ♀タイプと確認する。大雨覆羽縁が淡色なので第1回冬羽と思われる(鈴木紀雄、亀山睦子)。◇1月13日午前10時、生涯学習センター敷地内、テニスコート裏の林でオジロビタキ♂タイプ1羽(中村榮男)。

春日部市内牧 ◇11月13日、宮代側の上空でハイタカとハシブトガラスの空中バトルが繰り広げられた。12月24日、宮代側で「ゲッゲッ」と地鳴きは聞こえども姿の見えないルリビタキ。アカゲラが樹間を飛ぶ。ヤマガラ、カシラダカなど。1月8日、林内から上空を見上げるとオオタカ若鳥1羽が舞っていた。カワセミ2羽、水のたまった

堀で行動を共にしていた。つがいか？ カシラダカがパラパラ飛び、「フィッフィホ」と鳴きながらベニマシコ登場（鈴木紀雄）。
蓮田市上平野 ◇1月4日、ミヤマガラス約120羽、コクマルガラス暗色型6羽十。ついに蓮田まで南下した（玉井正晴）。

蓮田市黒浜 ◇1月8日、上沼でオカヨシガモ♂2羽♀、オオバンなど。黒浜療養所内の林でトラツグミ1羽、カシラダカ約20羽、堀でタシギ1羽。もう1羽飛んだシギ、大きめで、もしかしてヤマシギか？ キクイタダキ数羽、か細く「シーシー」鳴きつつ樹間に。ハイタカ若鳥が飛来、しばらく枝で休息（鈴木紀雄）。

越谷市大成町 ◇12月7日午後3時30分、レイクタウン工事現場内の調節池でカムリカイツブリ2羽。越谷市内では珍しい。他にアオサギ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、ハシビロガモ、マガモ。周辺の葦原でホオジロ、カシラダカが飛び回っていた（小菅靖）。

越谷市県立健康福祉村 ◇1月2日、池でユリカモメ約200羽、ゴイサギ50羽十、カワセミ、ホシハジロ、コガモ、マガモ、ハシビロガモなど（鈴木紀雄）。

高蒲町小林 ◇11月17日、ニューナイスズメ約20羽と50羽の群れ。ミヤマガラス15羽程を確認。コクマルガラスは見つからなかった（鈴木紀雄）。

伊奈町小針内宿 ◇12月2日、伊奈総合学園北側の耕作地でミヤマガラス50羽十（ハシブト、ハシボソも混じる）の群れにコクマルガラス暗色型3羽を確認（鈴木紀雄）。

桶川市川田谷 ◇11月8日午前7時22分、県道橋の右側の田んぼでタゲリ30羽。今年初



タカヘ(ニュージーランド)海老原美夫

認。11月15日午前8時、桶川西中学校より1つ南側の水のある田んぼを塒としているのかタゲリ30羽以上。11月23日午前8時20分、同所でタゲリ40羽以上の群れが舞い上がって南方へ飛んで行った（立岩恒久）。

羽生市南 ◇11月30日午後4時40分頃、頭上を東より西に向かってコサギ約40羽。屋根すれすれに移動。近くの正覚院の境内にある銀杏の太木にとまる。小雨ふる夜空に大型の白い群れは見事でした（柿沼義包）。

久喜市菖蒲公園 ◇1月4日、昭和池でホオジロガモ♂1羽、トモエガモ♂4羽♀2羽十（玉井正晴）。◇1月5日、昭和池でトモエガモ♂5羽♀3羽、オジロビタキ1羽（陶山、岩井、山原、山田）。

川島町八幡 ◇1月1日、越辺川でコハクチョウ3羽、十数年住んでおりますが、コハクチョウを見かけるのは初めてのようになります（投稿者不詳）。

渡良瀬遊水地 ◇1月1日、コチョウゲンボウ7羽十、あちこち飛び回ったり、並んで樹冠にとまったり。夕刻、ハイロチュウヒの塒入り。♂2羽、♀2～3羽を確認。その他ミサゴ2羽、ノスリ3羽、チュウヒ3羽など。チュウヒの減少が目立つ（鈴木紀雄）。

表紙の写真

ビロードキンクロ（カモ目カモ科ビロードキンクロ属）

この冬、船橋海浜公園に滞在して人気者でした。目の後ろの半月形の白斑とくちばし元の鼻瘤が特徴の潜水ガモ。北ヨーロッパからシベリア、北アメリカ北西部で繁殖し、日本には東シベリアの亜種（*Melanitta fusca stejnegeri*）が渡ってきます。三省堂発行『コンサイス鳥名事典』によれば、水辺から離れた森林地帯で営巣し、生後2～3日の雛でも30秒ほど潜れるとのこと。見てみたいですね。

写真：菱沼一充 解説：編集部

行事案内



(富士鷹なすび)

「要予約」と記載してあるもの以外は、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。参加費は、一般 100 円、会員と中学生以下は 50 円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。もしあれば、双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。

解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後 1 時頃。悪天候のときは中止。小雨決行。できるだけ電車バスなどを使って、指定の集合場所までお出てください。

加須市・はなさき公園探鳥会

期日：3月6日（土）

集合：午前 8 時 45 分、東武伊勢崎線花崎駅南口、または午前 9 時はなさき公園駐車場

交通：JR 宇都宮線大宮 8：06→久喜 8：26 着にて、東武伊勢崎線春日部 8：21→久喜 8：34 発に乗車、花崎 8：41 着。

担当：中里、玉井、長嶋、田村、宮下、四分一、伊藤（隆）

見どころ：植物園では木々が芽吹き始め、青毛堀川の土手では、足元に小さな春が花開き始めています。カモたちはそろそろ帰りの準備に取り掛かっています。旅立ち前の鳥たちとの出会いと小さな春を楽しみましょう。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：3月7日（日）

集合：午前 8 時 45 分、JR 宇都宮線蓮田駅東口、バス停前。

担当：玉井、中村（榮）、田中、吉安、菱沼（一）、榎本（建）、長嶋、長野、松永

見どころ：3 月にもなると、満開の梅や道端の草花が目を楽しませてくれます。枯れたアシ原も隙間が多くなって、オオジュリンやアオジなどの小鳥の姿が、じっくりと見られるチャンスです。早春の農村風景をのんびりと味わいましょう。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：3月14日（日）

集合：午前 9 時 30 分、秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷 9：11 発、または寄居 8：49 発に乗車。

担当：後藤、榎本（秀）、和田、森本、中里、石井（博）、倉崎、高橋（ふ）、藤田、栗原、飛田、大澤

見どころ：日照時間も長くなり、冬鳥たちは旅の支度でそわそわ、身近な小鳥たちは恋の相手を探して飛び回る。心浮かれる季節、さあ！ 私達も外に出て大麻生の春を全身で感じてみましょう。

さいたま市・見沼自然公園探鳥会

期日：3月14日（日）

集合：午前 8 時 15 分 JR 大宮駅東口「こりすのトトちゃん」像前。または午前 9 時 15 分、見沼自然公園駐車場。

担当：工藤、兼元、森（力）、吉岡（洋）、日根、松村、百瀬、渡辺（嘉）、赤堀

見どころ：啓蟄（けいちつ）も過ぎ、地中の生き物たちが動き始め、春の息吹が感じられます。北国へ向かう冬鳥たちを見送り、のんびりと見沼を歩きますか。

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：3月14日（日）

集合：午前 8 時 45 分、東武伊勢崎線北越谷駅東口。集合後午前 8 時 50 分発エローラ

行きバスで「松伏高校前」下車。または午前9時30分松伏記念公園北駐車場。

担当：田邊、橋口、大塚、神場、吉岡（明）、小菅、土澤、榎本（建）、野村（弘）、野村（修）

見どころ：シラコバトの集団採餌風景は見るのが少なくなりましたが、必ず居ます。田んぼの貴公子タゲリもまだ残っているでしょう。ヒバリやホオジロのさえずりを聞きながら、歩きましょう。

その他：松伏中央公民館との合同開催です。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：3月20日（土）午後1時～2時ころ

会場：支部事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：3月21日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺（周）、若林、兼元、小菅、新部、赤堀

見どころ：見沼田んぼに春が来た。花々が咲き始めるときで、鳥たちも冬鳥と夏鳥が交差する季節である。花と鳥、春を味わいにおいでください。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：3月21日（日）

集合：午前9時、東武越生線川角駅前。

交通：東武東上線川越8：13→坂戸にて越生線乗り換え8：42発。または寄居7：53→小川町乗り継ぎ、坂戸にて越生線乗り換え。JR川越線大宮7：35→川越にて東武東上線乗り換え。

担当：藤掛、高草木、青山、池永、久保田、杉原、志村、増尾、藤澤、佐藤（壮）、山田、池内、原

見どころ：高麗川の水もぬるみ、寒さも一段落、春らしい野辺になってきました。清流にすむカワセミの♂♀の識別や旅立ちの準備をするカモの仲間たちの観

察においでください。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：3月28日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8：43発、所沢8：36発に乗車。

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村（祐）、山本（真）、久保田、山本（義）、石光、山田（義）

見どころ：そろそろ冬鳥見納めの時季です。よく見てから送りましょう。例年通りカタクリを見るコースを歩きます。

栃木県・日光東照宮裏山探鳥会

期日：3月28日（日）

集合：午前9時15分、東武日光駅前。集合後、バスにて「総合会館前」まで移動。

交通：東武伊勢崎線春日部7：44発「快速」日光行き、栗橋から7：54→板倉東洋大前にて8：10発前記「快速」日光行きに乗り換え、東武日光9：12着。

解散：午後2時ごろ日光東照宮にて。

担当：玉井、田中、中里、福井

見どころ：大谷川と沢沿いの道でカワガラスとミソサザイに加えて山の鳥を探します。あの愛らしいミソサザイの姿を目の前に見たいものですね。去年はクマタカとカヤクグリ、今年は何が？ 日光の春は遅いので防寒対策を忘れずに。

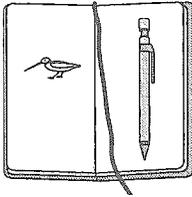
行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：3月28日（日）

集合：午前9時30分、県立さきたま資料館前レストハウス。

交通：JR高崎線吹上駅北口から、朝日バス行田車庫（佐間経由）行き8：52発にて、「産業道路」下車、徒歩約15分。

担当：内藤、岡安、和田、立岩、石井（博）、栗原
見どころ：暖冬の昨年、満開の桜にジョウビタキは絵を見るような美しさでした。平年並みだと蕾がふくらみ始める頃で、花見は無理ですが、夏鳥のトップランナーはもう飛来しているのでしょうか。



行事報告

11月2～3日(土～日) 長野県 白馬山麓

参加: 20人 天気: 両日とも晴後曇時々雨

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ コハクチョウ オシドリ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ヒドリガモ オカヨシガモ キンクロハジロ ホシハジロ ホオジロガモ スズガモ トビ オオタカ ノスリ オオバン キジバト フクロウ アオゲラ アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ コガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ アトリ カワラヒワ マヒワ ベニマシコ ウソイカル スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (56種) 長野駅から白馬村に向いながら水鳥を観察できるコースを採用。コハクチョウ、スズガモ、ホオジロガモなどを観察できた。珍鳥を期待して参加した方もいらしたようだが、白馬探鳥会では珍鳥出現率はそう高くない。ただ、どこにも負けない豊かな自然を満喫してもらえればと願っている。結果的に、野鳥56種類、樹木32種類、野草18種類、昆虫7種類を観察できた。モルゲンロートははずれたが、夜の温泉とこれだけの自然を観察できたのだから、秋の白馬も素晴らしいものだと思う。(小池一男)

11月23日(日) 狭山市 入間川

参加: 39人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ トビ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ ベニマシコ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) この日は二十四節気の一つ「小雪」。そろそろ雪が降る頃という

ことなのだろうが、相変わらず気温は高い。河原の草は枯れず、コナラやクスギの葉もほとんど付いたまま。鳥の世界は、ツグミやジョウビタキ、ベニマシコなどがやって来て冬らしくなってきた。久しぶりにカワセミも近くで見られ、いい感じ。一番盛り上がったのは、初登場のタヌキ2匹。丸っこい体型と愛敬のある顔にみんなニコニコ。

(長谷部謙二)

11月24日(月、休) 春日部市 内牧公園

参加: 65人 天気: 曇

ゴイサギ コサギ ツミ キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) 市報『かすかべ』読者が13人参加し大変嬉しい。スタートの池でツグミ、シメをじっくり観察。雑木林の中でこの時期珍しいツミが出現。また、セキレイ4種を見ることができ、楽しい探鳥会であった。

(吉安一彦)

11月30日(日) 蓮田市 黒浜沼

雨のため中止。

12月7日(日) 北本市 石戸宿

参加: 45人 天気: 晴

カワウ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ ツミ ノスリ キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) エドヒガンザクラ近くの林にエナガの群れが現れて、じっくり観察できた。釣堀では魚をねらうカワセミの姿が見られた。高尾の森の上空でツミが

帆翔していた。紅葉、黄葉がまだ少し残っていた。冬鳥の訪れが遅い気がする。(岡安征也)

12月7日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 50人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オオタカ ハヤブサ チョウゲンボウ キジ ユリカモメ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 集合時間の9時を過ぎたので始めようとしたその時、ジョウビタキの番のうれしい邪魔(?)が入り、スタートが少し遅れてしまった。予想外の暖かくいい天気で、気持ちよく歩くことができた。(伊藤芳晴)

12月14日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 31人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コハクチョウ マガモ コガモ オカヨシガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ トビ コジュケイ オオバン キジバト アオゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 少し北風があるけれど、まずは快晴の探鳥日和。明戸堰まで土手道をたどれば、鳥たちがそろって迎えてくれる。堰の上流では、すぐ足下に4羽のコハクチョウ。解散後、昼食を広げていると、ノスリが1羽、「遅れてごめん」と飛んできた。(榎本秀和)

12月14日(日) 岩槻市 岩槻文化公園

参加: 89人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ チョウゲンボウ イカルチドリ イソシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒ

ワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 出現鳥が少なく心配な出だしだったが、村国池を過ぎたところからシメ、アオジ、カワセミ、アカハラ、シロハラなど次々に出現し、皆を喜ばせた。元荒川では先客の釣り人がいたため、数も種類も少なかった。天候に恵まれ、出現数・参加者も多く、すばらしい探鳥会だった。(中村榮男)

12月20日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 13人

新井浩、伊藤泰一郎、江浪功、海老原教子、大坂幸男、島田沙織里、島田貴子、志村佐治、藤掛保司、藤野富代、増尾隆、松村禎夫、百瀬修

12月21日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 57人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ オナガガモ ハシビロガモ オオタカ ハイタカ チョウゲンボウ バン キジバト コゲラ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス キクイタダキ エナガ ヒガラ シジウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ シメ スズメ カケス ハシブトガラス (37種) 前日の強風、雨、雪で天候が心配されたが、快晴となった。スタート直後、ルリビタキ、ジョウビタキ、シロハラと同じ場所に出て盛り上がる。その後に、オオタカ2羽。陽光を浴びてきれいな舞姿であった。大沼のカモ激減の穴埋めをしてくれたと思うが、カモの少ないのは寂しい限りだ。かつて水面を埋め尽くすほどいたカモたちはどこに行ってしまったのか。(内藤義雄)



ミヤコドリ (菱沼一充)

連絡帳

●諫早湾に関する緊急アピール

諫早干潟緊急救済東京事務所から、「農水省が近々中長期開門調査は行わないという最終判断を下そうとしています。干拓事業の工事中止と長期にわたる開門調査の実施を求める緊急アピールに、団体として賛同してください」との文書が届きました。呼びかけ団体の中には、日本野鳥の会の名前もあります。

1月25日(日)の支部役員会で討議した結果、埼玉県支部として賛同することに決めて、その手続きをしました。

農林水産大臣に対する要請文の要旨「私たちは、干拓事業により失われた諫早湾の豊かな干潟・浅海域を回復させ、有明海を宝の海として再生させるため、干拓事業工事中止と長期開門調査の実施を要請します。」

●渡良瀬貯水池干し上げ中止要請

この欄執筆中の本年1月末現在、渡良瀬貯水池(谷中湖)で、水質改善のためにということと貯められていた水を放流する「干し上げ」作業が進行して水位が下がり、カモ類やカイツブリ類がいらなくなりつつあります。水鳥だけではなく、ミサゴなど魚食性の鳥類や、谷中湖に依存している多くの生物にとって、生存を脅かされる重大な事態です。

栃木県支部は、「専門家・機関等に相談もなく、年末に極めて唐突に発表され、本来なら水を蓄えるべき渇水期の冬に、生物への影響など全く考慮されずに開始されたもの」として、渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会(代表世話人:高松健比古栃木県支部長)とともに、国土交通省利根川上流河川事務所に中止を求める運動を展開することにして、埼玉県支部をはじめとする関東ブロック協議会構成支部にも協力を求めてきました。

支部事務局はとりあえずメールで連絡のつく役員にのみ栃木県支部からのメールを転送して意見を求め、支部長・副支部長判断で埼玉県支部として協力することを決め、栃木県支部に連絡しました。

次回2月の役員会議で、メールの届かなかった役員も含めて、再度確認する予定です。

●3月の事務局 土曜と日曜の予定

- 6日(土) 4月号編集作業。普及部会議。
- 13日(土) 4月号校正(午後4時から)。
- 20日(土) 袋づめの会。
- 21日(日) 役員会。

●会員数は

2月1日現在 2,492 人です。

活動報告

- 1月17日(土) 2月号校正(大坂幸男、喜多峻次、志村佐治、藤掛保司、山田義郎、山部直喜)。
- 1月23日(金) 本部常務会に出席(海老原美夫)。
- 1月25日(日) 役員会(司会:玉井正晴、各部の報告・諫早干潟緊急アピールへの対応・行事予定の変更など)。
- 1月26日(月) 支部報だけの会員向け、2月号を郵便局から発送(倉林宗太郎)。

編集後記

数万羽のカモメがいる銚子の探鳥会に1年ぶりに出かけた。来ているというカナダカモメを探したが、さっぱり分らない。我慢じゃないけど、海無し県の埼玉鳥見人。カモメが分からなくてもちっとも恥ずかしくない(本音はウソ)。しかし2日間もカモメばかり見ていると、何とか基本種の成鳥は分るようになる。カナダカモメもゲットできたが、ただカモメが1羽もいなかった。なぜ? (橋)

しらこぼと 2004年3月号(第239号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階

(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社